

100 加熱上試料たる各種鋼の臨界點は次に示す溫度に於て生したり。

密質鋼及氣泡ある鋼

Ag ₁	Ag ₂	Ag ₃	Ar ₁	Ar ₂	Ar ₃
722°	758°	869°	682°	760°	846°
746°			693°		

軟鑄鋼塊及壓延したるもの

硬鋼に在りては六〇〇度に於て水素の發散其の最大率に達し、此の溫度以下に在りては發散する瓦斯之か大部分を占む。而して實驗開始當時には一酸化炭素の發散すること緩徐なりしと雖、既にAr點に一致する溫度たる六八八度に達せしときは、之か發散の最大率に到るなり。

軟鋼に在りては六六〇度迄の溫度に於て、水素は集りたる瓦斯の大部分を占め、既に六九〇度に及へば最大率の發散を現はすへし。然るに硬鋼と異り軟鋼は七八六度に於て瓦斯の發散すること最多なると同時に、一酸化炭素も亦發散すること其の最大限に達するを以て、最終の溫度は約A₂及A₃點の中間に位するものと察するを得へし。

要するに是等の抽出したる瓦斯は、鋼其のものより發散せしものなるか、將亦實際に放出したる瓦斯相互の作用に因りて組織せしものなるや、尙深く研究を要する問題なりと謂はざるを得ず。

獨逸鐵鋼業の近況 (承前)

其五 (The Iron & Coal Trades Review May 2, 1919.)

鐵鋼

K O 生

政府は鐵鋼業の再興に對して國家の公務として之を企業組合に提案せり、此提案に據れば政府は鋼企業組合と銑鐵企業組合とを鋼同盟組合の形式に於て聯結せしめんとす、而して該同盟は採鑛の

爲めに一省を設け、銑鐵、鋼壓延產物、鍛鍊物及鋼鑄物等を生産し、且鋼管等を作製せらるへし。政府は鋼同盟組合より二名の委員を任命せんと欲す、一名は製造業者、需用者並商人中より選舉せしめ、他の一名は政府の吏員より任命すへし、之に依りて該省を管理せしめん計畫なれとも、一方に於ては反對論の生すへきものゝ如し。

ルクセンブルグよりの報告によれば、グラント、ダッチーに於ては獨逸所屬の總ての鐵鋼業は獲得運動進行し、以てルクセンブルグ鐵鋼業をして全く獨立せしむへき計畫を提案せりと、此事件に於ては元來佛國及白耳義工業と關係の極めて密接なるものあるを以て結局相協商せらるへし。

ルクセンブルグ製鋼會社及セント、イングバルト製鐵所管理者、白耳義人ラザルエー氏は最近の會合に於て提議して曰はく、引退せる獨逸の二名の管理者(スタイネス及トーマス)にして再選せらるれば余は同席するを首肯し得すと、此提議に依りて獨逸人管理者の再選は次回の會合迄延期せられたり。

クロイソートに於けるシユナイダー會社及聯合ブルバツハ、アイヒ、デューデリンゲン鐵鋼作業會社は利益共通の協定をなせり、後者に於ける株主は最近獨逸人にして管理者の列にあるものを除名することを決議せり。

フライド、グルツプ會社に於ては目下最小形より最大形に至る廣大なる階級に於ける齒輪製造に従事せり。

ブデラス製鐵會社に於ては資本金四〇〇〇、〇〇〇馬克なるを二六、〇〇〇、〇〇〇馬克迄増資せり、之はヒルゼンハイン製鐵所々有株を獲得せしに依るなり。

銑鐵の價額及生産

普魯西通商大臣はウエストフアリア石炭企業組合によりて、四月一日より施行すべく決議せられ

たる骸炭及石炭價格の昂騰に關して認可せざりしを以て、銑鐵企業組合は餘儀なく價格の低減を強
制せられたり。茲に於て企業組合は銑鐵生産價格を一噸に就き、直接又は間接に四〇・五〇馬克より四
八馬克迄低減せり、又企業組合は凡ての種類の銑鐵に對して價格の大低減を承諾する旨を發表せり、
然れども目下ナツサウの赤鐵鑛の價格か昂騰せるを以て實際取引は酌量を要せらるへし、結局左の
如く低減することに決定せり。

ヘマタイト一噸に付、一〇七馬克より五二馬克迄。一番並三番鑄物用鐵一四七馬克より九〇馬克迄。
ジーゲルランドの平爐銑一二四馬より六三・五〇馬克迄。鏡鐵、一四五馬克より七二馬克迄。ルクセンブ
ルグ鑄物用鐵、一四一・五〇馬克より八一・五〇馬克迄等なり。

四月一日より施行せらるゝ製造業者の作業に於ける價格は次の如く決定せられたり。

ヘマタイト	三六六・五〇 ^{馬克}	ジーゲルランド平爐銑	三〇三・五〇 ^{馬克}
一番鑄物用鐵	三四〇・〇〇	鏡鐵	三三一・〇〇
三番同前	三三九・〇〇	ルクセンブルグ鑄物用銑	二九六・五〇

企業組合は附記して曰はく、斯く低減せる新價額は生産の費用より少額なるものなれば製鐵所は
損失を以て作業を繼續せるものなりと。

鐵鋼組合は一、二、三月に於ける日々の生産額を發表せり、即ち

一月 一六、一六八噸 二月 一六、七五七噸 三月 一七、六一一噸等なり。

本年一、二、三月に於ける生産額を前年度の者と對照する時は次の如し。

	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
一月	一、五六六・五〇五 ^噸	八七四・一三三 ^噸	一〇七八・三六八 ^噸	一、〇八二・七九七 ^噸	九三三・五七〇 ^噸	五〇一・二〇八 ^噸
二月	一、四四五・五一一	八〇三・六二三	一、〇三六・六八三	九四三・五四七	八〇二・七八八	四六九・二〇九

三月	一六〇二、八九六	九三八、四三八	一、二一四、一九四	一、二〇四、六五三	一、〇三九、〇九二	五四五、九三九
合計	四、六一四、九一二	二、六一六、一九四	三、二二九、二四五	三、一三〇、九九七	二、七七五、四五〇	一、五一六、三五六

本年三月に於ける生産額中には占領地域に於て生産せられたる、六四、三九六噸を含有せるを以て、其全部を獨逸國內の需要に供給せらるゝものにあらざるなり。

其六 (The Iron & Coal Trades Review. May 9, 1919)

鐵 鋼

獨逸政府は昨年十二月二十五日聯合軍とルクセンブルグに於て鐵鑛供給に關して協商せしか、四月二十六日迄に聯合軍は一噸の鑛石をも交附せざりき畢竟該協商の効果は一定の期間内に限定せられたるものなりと。又獨逸内地よりの情報に據れば聯合軍は五月一日より石炭、骸炭、滿俺、スラグ及滿俺鑛等の供給を停止せしむへしと云へり。

從來鋼企業組合は商業組合と協定の上、デヨイスト通商の管理をなせるか、六月三十日を以て該協定は終了の通告を發せり。此通告は又遠からずして鐵鋼業に於ける企業組合組織たる完全なる形式を以て再現すべく豫期せらるゝなり。獨逸國內に於ては五個の組合組織あり、而して和蘭デヨイスト組合か近く協定を終了し、更に再興するにあらずんば前記の企業組合はデヨイスト販賣をも引受くるに至るへしと。

鋼企業組合は需用者、當局者並従業員代表者等と更に會合して未成品なる鋼並其形狀等の問題に關して商議せるか、其結果は未だ不明なり。製造業者間に於ける輿論は従業員を増俸の結果、業務を發展せしむるか、又は價格を引上ぐるか、目下一定せざるなり。其外企業組合及聯合組合の會合は鋼企業組合か登録済の上直ちに開催せらるへしと云ふ。

其七 (The Iron & Coal Trades Review. May 16, 1919)

鋼企業組合設立者は四月三十日デユッセルドルフに於て價格問題に就て商議せり、出席者は政府、經濟部代表者、需用者、商人並従業員組合の代表者等なり。種々なる品種に於ける騰貴を決議せられたり。而して五月一日に於て鋼企業組合及他の聯合組合は更に集會して向ふ二箇月の期間に於て操業に實施せんことを商議すへしと云ふ。四月三十日の會議に於ては生産物の價格は假令損失の伴ふことありと雖、長期に亘りて變動を停止せしむることを協定せり。需用者並商人代表者は本元の價格に一一致せざる増額に關しては反對せりと云ふ。又製造業者側に於ける捨賣防止に於て陳述せり。政府は價格引上に就て認可を與へたり。又現在協定せられたる價格は二箇月間不變なるものなれば此際騰貴 (Hansco) なる字句を放棄することを決議せられたり。價格引上の割合は、粗インゴット二〇馬克、端切インゴット五〇馬克、ビレット及板棒七五馬克、棒一一五馬克、フープス一一〇馬克等の如し。而して現在の相場は次の如く定められたり。

粗インゴット四〇馬克、端切インゴット四四〇馬克、ビレット四七五馬克、板棒四八〇馬克、シェー
プス五二〇馬克、棒五五〇馬克、フープス六〇〇馬克、ワイヤ、ロット五五〇馬克、鋸六一五—六六〇馬克
等なり。

管は一五%方低落せり、然るに線及線釘等は騰貴せり。現在の相場は本年に入りて第三回目の騰貴なりとす。

ロンバツハ製鐵會社の支配人は占領せられざる地方の顧客に對して休戦以前協定せられたる凡ての契約は有効なるべきことを通告せり。顧客に於ては之を否定せんことを強制せりと云ふ。同様な事件はローレンに於ける他の大なる工場に於て流行せり。即ち休戦以前に注文を登録せる分は之か遂行の傾向にあるなり。されば獨逸政府に於ては占領せられたる地方に於ける獨逸商會の損害並、

佛國が占領せる權威に據りて人民の到底負擔に耐へざる壓制に對して抗議書を提出せり
 ストックホルムよりの通信によれば昨年十一月以來故障ありたる、對獨逸鐵鑛輸送に關して今回
 獨逸小汽船は其輸送を開始せり、而して瑞典に於ける運送用大汽船は唯、平和會議の解決せられたる
 後、輸送を開始せらるへしと云ふ。

佛蘭西はローレンに於ける操業生産物の利益に依りて、瑞西に事業を締結し、又瑞西及伊太利に至
 る鐵道運賃條件を便宜に協定せらるへしと云ふ。是に據りて獨逸鋼企業組合は此競争の壓迫の下に
 瑞西に於けるシェープスの價格を當分の間一噸に付、二〇〇法に低減せしめたり。

鐵鋼生産組合は三月に於ける鋼の生産額を報告せり、總計六三〇、〇八一噸にして二月に於ては五
 二四、四六噸なりき。前者に於ては聯合軍に占領せられたる地方に於ける二七、〇一一噸を包含せり。三
 月に於ける壓延産物の生産額は半成鋼を除きて、總計四九三、五四四噸なり、昨年三月は九一九、五四八
 噸にして又本年二月は四一二、三九七噸なりき。

會社近信

過去二箇年に於ける各會社の財政状態は次表の如し。

會社名	純益		普通株に於ける配當歩合	
	一九一七年	一九一八年	一九一七年	一九一八年
ドンネルスマルク熔鑛所	一四六、〇〇〇	六〇、〇〇〇	二二	一一
獨逸錨鎖會社	一四八、〇〇〇	一、八〇〇	二二	一一
クレフエルト製鋼所	七四三、〇〇〇	一一四、〇〇〇	二〇	一一
ライン金屬並機械會社	二五一、〇〇〇	二四七、〇〇〇	二六	二二
イルセー鑛山會社				

オツテンセン製鐵所	一九、〇〇〇	一八、〇〇〇	一三、五	一〇
シレジア鑛山會社	二九四、〇〇〇	八四、〇〇〇	二〇	六
デリングン機械會社	三〇、〇〇〇	三四、〇〇〇	一〇	二二
ハーレー製管會社	一四、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五	一五
コールテン兄弟組	一一三、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一〇	一〇
鐵道シグナル製作所	八五、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一〇	一六
ブツカウ機械製作所	—	—	—	—
伯林アンハルト機械會社	一一五、〇〇〇	一一八、〇〇〇	一二	一二
ポエンスゲン機械會社	一一、〇〇〇	五、〇〇〇	一〇	五
クラウス會社	—	—	八	八
ブルームウエー機械製作所	九、〇〇〇	七、〇〇〇	一〇	七、五
鍍金並鐵工所	八三、〇〇〇	七三、〇〇〇	一六	一六
製鐵會社	一四、〇〇〇	一三、〇〇〇	一二	八
バウゼン機械會社	二〇、〇〇〇	八、〇〇〇	一五	八
ブツケー金屬會社	三三、〇〇〇	二一、〇〇〇	一六	一〇
ライス、マルチン機械會社	二〇、〇〇〇	一三、〇〇〇	一〇	一五
デュツセルドルフ機械製作所	四〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	一六	八
ベルネドルフ金屬製作所	七〇七、〇〇〇	二六七、〇〇〇	一九、五	六
ヘルマン機械會社	三七、〇〇〇	二六、〇〇〇	一五	一五
アルフレツド機械會社	一七、〇〇〇	一四、〇〇〇	二〇	二三

グリツナー機械會社	六八、〇〇〇	四八、〇〇〇	一五	一五
デュツセルドルフ汽罐會社	六、〇〇〇	七、〇〇〇	一五	一二
フランゲー、スタンピング會社	一〇五、〇〇〇	一三四、〇〇〇	三〇	九

其八 (The Iron & Coal Trades Review, May 33, 1918)

鐵 鋼

獨佛間に於ける鐵鑛及骸炭の假交易に關する新事實を報告せられたり、之は聯合國と獨逸との間に決定せられたる協商にして、獨逸は佛國に骸炭を供給し、其代償として骸炭一噸に付、礦石一二五噸を受領すへきなり。骸炭は獨逸の荷車に依りて運搬せられ、而して礦石を載積して歸還すへし、該協商の細目は委員に依りて決定せらるへしと、

ジールランド鐵鋼企業組合は價格を一噸に付、四馬克より六馬克迄騰貴せしめたり、そは五月一日より石炭價格の騰貴に因るなり。一方に於ては最近生産額の不振を報せらる、鋼企業組合は一噸に付、ヘビー、レールを一一〇馬克迄、スリパーを一三〇馬克迄、並、フィッシュプレートを一四〇馬克迄騰貴せしめたり、

ルイメリンゲン、セント、インゲバルト製鐵所及製鋼會社はルクセンブルグに於て延期せられたる會合を開會せり、其結果、ブラツセルなるラベレー氏は該會議の會長を辭職すへしと、同氏は獨逸人か會員として殘留せる以上は事業繼續を拒絶するものなりと云ふ。會長の辭職に伴ひて支配人なる白耳義人ダツチエンの辭任を見るに至るへし。現在の支配人はスタイン、ローマン、ハウク及ランツ等なり。

フォニツクス鋼會社に於ては總支配人ボイケンベルグを辭任せしめたり、而して目下會社株を交換するの意味を以て從來よりの懸案たる三炭坑試驗組合の吸収に向て實行案を提出せり。

會社近信

過去二箇年に於ける各會社の財政状態は次表の如し。

會社名	純益		普通株に於ける配當歩合	
	一九一七年	一九一八年	一九一七年	一九一八年
ゲルシエンキルヘン鑛山會社	一、四三二、〇〇〇 ^磅	六六二、〇〇〇 ^磅	一二%	六%
ブデラス製鐵所	一七一、〇〇〇	九九、〇〇〇	一〇	七、五
上シレジア鐵道會社鐵材部	九〇五、〇〇〇	一四七、〇〇〇	一五	五
スプリング製鋼所	四一、〇〇〇	三九、〇〇〇	一二	八
北獨逸製鐵所	七一、〇〇〇	六二、〇〇〇	一〇	一〇
ハスパー製鐵所	一七、〇〇〇	四、〇〇〇	三〇	六
エツシリゲン機械會社	八四、〇〇〇	八五、〇〇〇	一二、五	九
鐵工業及橋梁會社	二二、〇〇〇	二二、〇〇〇	八	九
フランクフォルト機械會社	五七、〇〇〇	三五、〇〇〇	二三	一八
フランクフォルト機械製作所	一六四、〇〇〇	三七、〇〇〇	二〇	一四
ミル機械工作所	一一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	七	六
ザール機械及製鐵會社	八、〇〇〇	五、〇〇〇	八	八
キイフハウゼ製鐵所	一八、〇〇〇	二〇、〇〇〇	四	六
クラフト鐵工所	二九九、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	二〇	六

其九 (The Iron & Coal Trades Review May. 30, 1919)

鐵 鋼

獨逸鐵鋼企業組合は内國鐵鋼業者を代表して講和に關する異常なる條件に對して政府に抗議書を建白せり。獨逸の鐵鋼業並同企業組合は之か爲めに全く瀕死の状態にあればなり、其一節に曰はく『吾人は鐵鑛の寶庫、大製鐵所々在地なるアルサス、ローレン及南獨逸に供給せらるゝザールの石炭區域並上シレジアに於ける富源の石炭及工業地等を終に掠奪せられたり、而してライン左岸地方に於ける勤勉なる人民は敵愾心を以て將來苦役に服せざるへからず』と。

ゲルセンヤルヘン鑛山會社の株主はライン左岸に於ける同會社所有財産の處分に就て、一切管理人に委任せり。此中にはルクセンブルグに於ける作業、アーヘン製鐵所及鐵鑛山の投資額等を包含せり。佛蘭西及白耳義の共同組合なるブルバツハ、アイヒ、デューデリンゲン會社は前記會社の購買候補者と目せられ、購買價額は總計一九五、〇〇〇、〇〇〇馬克(九、七五〇、〇〇〇磅)と計算せられたり。

機械工具の狀況に於ては、中立國より僅少の注文あれとも内國の顧客に至りては曩の注文を取消すもの少からず、されは該工業一般の形勢は甚た不振と云はざるへからず。

銑鐵企業組合は近來骸炭價格の騰貴に連れて、五月一日より銑鐵時價を一噸に付、四〇馬克より五〇馬克に騰貴せしめたり。此標準相場に従ひて、ヘマタイト四〇七馬克(二〇磅七志)獨逸鑄物用鐵三九〇馬克より三九一馬克(一九磅一一志)及ルクセンブルグ鑄物用鐵三四一、五馬克(一七磅一志)等とせり。仲買人に因りて市場に於て異常なる附値ありたる報告あり、之は迅速積送にして棒の七八〇馬克(三九磅)より八五〇馬克(四二磅一〇志)に至る價格なり。之等の附値に至りては製造業者より出てたるものか、又は需用者より支配せられたるものなりや、目下問題に上れりと云ふ。其他ワイヤ、ロッド五五〇馬克(二七磅一〇志)、ドロロン、ワイヤ七二〇馬克(三六磅)ワイヤ、ネイルス八五〇馬克(四二磅一〇志)、ポルト及リベット鐵八一〇馬克(四〇磅一〇志)及鍍線九〇〇馬克(四五磅)等なり。

其十 (The Iron & Coal Trades Review, June 6, 1919)

100 聯合軍に依りて占領せられたる地方に對し、ルクセンブルグ及ローレンより、一時鐵鑛を輸送することを許可せられたり、之は内國聯合經濟委員會の協賛に據れるものなり。ルクセンブルグ鐵鑛價格は鑛山に於て一噸八〇法なりとす。ジールランド鐵鋼企業組合は六月三十日限り協定名義は消滅するものなるか、鑛山に其儘加入繼續の條件を以て尙ほ二箇年延長することゝなれり。近來其他の會社も生産物管理條件の下に該企業組合に加入せるを以て一箇年の生産額は四〇〇、〇〇〇噸増加せらるゝことゝなれり。

鋼企業組合及地方聯合組合なるデヨイスト商業組合との間に於ける將來の關係問題は既に解決せられたり、ライン製鋼會社は該商業組合と近日協定を中止する條件に於て鋼企業組合の一時の延長に對して其同意を與へたるものなり。ライン會社の狀況は既に利益を形成せる新販賣組合の合體に依りて大に好況を呈せりと云ふ。

ルクセンブルグよりの報告に因れば、ブルバツハ、アイヒ、デューデリンデン聯合工作所は、ドンメルデンゲン工作所に於て四個の熔鑛爐及一個の電氣鋼工場を建設し、且新壓延機械の設備をなし、主として小棒の製造に従事すへしと云ふ。

製鐵所組合及三聯合組合は製鐵業に對して専門的研究を目的とせる中央技術委員會を組織せり。

鐵鋼生産業組合は大なるストライキありたる四月に於ける銑鐵の日々平均の生産額を報告せり。即ち銑鐵一四、四七七噸にして、三月に於ては一七、六一一噸なりき、而して鋼は一七、七八〇噸にして、月に於ては二五、二〇四噸なりき。四月に於て銑鐵は合計四三四、三二八噸及鋼四二六、七一七噸にして、此中にはルクセンブルグ及ローレン等の産額を除外せり、然れともザール及ババリヤのバラチネーの概算を包含せられたり。銑鐵生産額最近年の初四箇月に於ける比較表を示せば左の如し。

	一九一四年	一九一六年	一九一八年	一九一九年
一月	一、五六六、五〇五	一、〇七八、三六八	九三三、五七〇	五〇一、二〇八
二月	一、四四五、五一一	一、〇三六、六八三	八〇二、七八八	四六九、二〇九
三月	一、六〇二、八九六	一、二一四、一九四	一、〇三九、〇九二	五四五、九三九
四月	一、五三四、四二九	一、〇七三、七〇六	一、〇八四、六〇一	四三四、三二八
本年一月に於ける鋼産額は五七四、一九一噸、二月に於ては五二九、九一三噸、三月に於ては六三四、八九三噸、四月に於ては四二六、七一七噸なるは前記の如し。				

日本最初の鉄力産出

鉄力は日本では出来ないものと一般に断念めてゐた處が今度舶來品に劣らぬ優良品が産出さるゝことになつた、戦後の國産奨励の意味から此の鉄力の製造に着眼したのは、日東製鋼株式會社で、戦時中から川崎分工場にて技師長中島正賢氏、技師松葉市岡、山下三氏が寢食を忘れて研究苦心の結果、五月末に至り漸く完全な鉄力を製出することゝなつたので、八月十三日山本農相、小阪秘書官、小野與銀副總裁、四條工務局長、崎川鑛山局長、吉村、小西兩技師等が其工場を視察し、山本農相は小野副總裁を顧みて『君も之れで責任解除だ』と喜びを述べた、之につき社長井上角五郎、取締役根本龍太郎兩氏は交々語る『我國での一箇年鉄力の消費高は民業約四萬噸、陸軍三萬噸で内地生産は皆無であつたが、外人の技師も雇はず眞に我々のみで非常な苦心の結果漸く輸入品に劣らぬものを製作し得るまでに漕ぎ附けたれど職工の養成からせねばならぬから容易でない、目下日々鐵板四噸半を鉄力にする能率があるが、月末までには十噸、十一月末には二十噸を製出し得るが、行く行くは年額一萬噸位迄は擴張する計畫にて此の國家的工業も其の緒についたことを衷心欣喜に堪へぬ』と雀躍りしてゐた、政府でも將來補助を加へるであらうとの事である。